

会議結果報告書

1 会議の名称

令和8年度第1回光市男女共同参画推進ネットワーク会議

2 開催日時

令和8年7月2日（木）13時30分～15時00分

3 開催場所

光市役所 3階 大会議室1・2号室

4 出席人数

委員13人（2人欠席）、事務局4人

5 公開・非公開の別

公開

6 傍聴者

2人

7 会議の議事録

（1）開会

（2）委嘱状交付

（3）市長あいさつ

（4）委員紹介

（5）会長、副会長選出

（6）議題

ア 男女共同参画に関する市民アンケート結果について（報告）（事務局説明）

【質疑・意見等（要旨）】

（委員）

一連の報告から、男女共同参画における「理想と現実のギャップ」が非常に大きいことが改めて浮き彫りになった。

10代～20代の若年層と70代～80代の高齢層では、これまで生きてきた時代背景や社会通念が異なるため意識の乖離が生じるのは必然である。資料内に年代別のデータがあったが、年代ごとに掘り下げて見ることで、さらに違った実態や課題が見えてくるのではないかと。

イ 第5次光市男女共同参画基本計画（骨子）について（事務局説明）

【質疑・意見等（要旨）】

特になし

ウ 意見交換（要旨）

（委員）

災害が発生し避難所が開設される際、現状の運営体制は男性中心になりがちで、女性の参画が十分に進んでいない。避難所の運営計画を策定する初期段階から女性に積極的に加わってもらい、「計画から運営まで」を共に行う仕組みが必要である。

（委員）

主婦として生活する一方、勤務する障害者福祉の現場は女性が優位な職場であり、一般的な「男性優位」の社会とは逆に、男性職員が肩身の狭い思いをしていないか等を感じることもある。

また、現代のこどもたちは、大人世代のような「男女の差別や固定観念」をそもそも持たずに育っているのではないか。むしろ「男女共同参画」という言葉で大人が枠にはめるのではなく、時代と共に変化しているこどもたちの自然な意識を大人の側が正しく読み取っていく姿勢が求められている。

（委員）

求職者の支援を行っているが、こどもを持つ女性求職者が仕事を探す際、最も懸念されるのが「こどもが急に発熱や病気をした際、すぐに休みを取れる環境であるかどうか」という点である。窓口でもこの相談を耳にすることが非常に多い。

（委員）

自社では男女比率が「5対5」となっており、フィフティ・フィフティの職場環境が自然と作られている。体力面や力仕事の差についても、知恵等によって十分にカバーが可能であると考えている。

社内では育児休業から復帰した女性社員が活躍できる環境があり、過剰に性別を意識する必要性は薄れている。世間でも、かつてのような固定的な性差に囚われない、自然な雰囲気広がりがつつあるのではないか。

（委員）

現在、光市内の公立保育現場における男性保育士は2人程度にとどまっている。保育の現場においても、より男性が活躍できるよう一層の推進が必要である。

当園では今年度から園児を対象とした人権教育の年間カリキュラムを独自に作成し、毎月保育士からこどもたちへ話を伝えている。この時期から人権や多様性の尊重を伝えることで、こどもたちが大人になった際に、誰もが手を取り合って協力できる社会の風潮が醸成されることを期待している。

（委員）

所属しているサークルでは、近年父親の同伴や父親単独での参加が増加しており、男性の育児参画の広がりを嬉しく感じている。一方で、母親の就労化に伴い早期に保育園へ入所する家庭が増え、サークル全体の参加者は年々減少傾向にある。

父親がそばにいて家事や育児を共に担うことは、母親にとって大変心強いものであると確信している。男性の育児休業等の制度がさらに充実し、社会全体が恩恵を受けられるような調和の取れた制度が今後さらに進んでいくことを期待する。

(委員)

人権擁護委員の啓発活動の一環として、人権教室を市内の小学校2校で実施する。「男の子がセミを怖がること」や「ランドセルの色」といった具体的な題材を扱い、グループワークを通して「男らしさ・女らしさ」ととらわれず、個性を尊重し合う「心の教育」を行っている。

先日、幼稚園等で人権教室を行ったが、未就学児でも十分に人権教育は成立すると確信した。委員各位には、男女共同参画や人権意識の基盤を作るこのような草の根の啓発活動が地域で実際に展開されていることをぜひ知っていただきたい。

(委員)

コミュニティセンターでの防災訓練の際にも、避難所には男女双方が避難してくるため、「運営側に女性がいた方が良い」という声があった。男性には相談しにくい事案もあり、女性が防災士資格を取得する動きも出ている。

本日「LGBTQの割合が約10人に1人」という実態を知った。学校のクラスに換算すると3人程度となり、予想以上に身近な課題であると驚いている。近年、中学校等の制服がブレザーになり、女子生徒がスラックスを着用している姿は見かけるようになってきたが、男子生徒がスカートを着用している姿はまだ見受けられない。

(委員)

一般的に「力仕事は男性」と言われるが、実際の地域活動では多くの女性が参加する。高齢化により男性の参加が難しい面もあり、生活現場の実態は従来の男女の役割イメージ通りにはいかないのが現実である。男女共同参画の推進にあたっては、これまで地域を築いてきた高齢層の生活実態や健康問題も視野に入れ、将来を明るくものにするための取組を進めてほしい。

(委員)

女性の防災士を増やしていく取組に賛成。今後も地域において女性防災士を積極的に増やしていくべきだと考えている。

(委員)

高齢の従業員が多く働く社内においてハラスメントの意識統一を図るため、パワハラ、カスハラ講習会を実施した。しかし、育った時代背景による認識の差は大きく、講習後も「本当にハラスメントに該当するのか」という問い合わせが寄せられ、同じ基準を浸透させることの難しさを痛感している。男女共同参画を進めるにあたり、どの世代に焦点を当てていくべきかという懸念がある。「正しいことだから従いなさい」という一方的な押し付けでは解決が難しいと思う。

(7) その他

(8) 閉会